

「令和4年度農林水産業・食品産業における作業安全強化対策  
推進事業のうち新たな現場の作業安全対策の実現に向けた情報  
発信等普及啓発委託事業」

## 事業成果報告書

令和5年3月10日  
一般社団法人中部産業連盟

## 目次

第1 事業の概要等	2
1. 事業の目的	2
2. 事業の実施期間	2
3. 事業の概要	2
(1) 作業安全推進ウェビナーの開催	2
(2) 作業安全普及ステッカーの作成	2
(3) 成果物の提出	3
(4) 業務の実施スケジュール	4
第2 実施業務の詳細	5
1. イベント準備	5
(1) チラシ・ポスター制作	5
(2) 専用サイトの構築・運用	7
(3) リスティング広告の実施	11
(4) 講演者の選定及び連絡調整	12
(5) 会場・資機材の確保	13
(6) 参加者募集・対応	13
(7) Zoom ウェビナーの設定	13
(8) アンケートフォームの設定	14
2. イベント実施	14
(1) イベントの実施体制	14
(2) イベントの主な内容	15
(3) ウェビナー参加者数及びYouTube 視聴者数	17
3. アンケート結果	17
(1) 農業分野「令和5年春の農作業安全確認運動推進会議」 エラー! ブックマークが定義 されていません。	
(2) 林業・木材産業分野「林業・木材産業 作業安全推進ウェビナー」 エラー! ブックマ ークが定義されていません。	
(3) 水産業分野「漁業 作業安全推進ウェビナー」 エラー! ブックマークが定義されてい ません。	
(4) 食品産業分野「食品産業 作業安全推進ウェビナー」 エラー! ブックマークが定義さ れていません。	
4. 成果品の提出	17
(1) チラシ・ポスター	30
(2) 編集動画	32

## 第1 事業の概要等

### 1. 事業の目的

農林水産業や食品産業の現場においては、依然として死傷事故が多発しており、農林水産業・食品産業の従事者の作業安全の確保が急務であるとともに、深刻化している人手不足への対応が待ったなしの課題となっている。このため、作業安全対策を推進・強化し、死傷事故の発生を抑制することにより、農林水産業・食品産業を若者が自らの未来を託せる産業にしていくことが不可欠である。

また、高齢者や女性、外国人材など現場で活躍する人材の多様化や、安全対策へのスマート技術の活用の可能性など、作業安全対策をとりまく課題や状況も変化しており、今後、作業安全対策をさらに推進していくためには、幅広い情報発信を行い、農林水産業・食品産業の業種の垣根を越えた気運の醸成を行うことが急務である。

このため、本事業では、作業安全推進に関するシンポジウムや分野別の作業安全推進ウェビナーの開催等を通じ、作業安全対策の推進に向けた情報発信、意見交換の機会を提供し、農林水産業・食品産業の業種の垣根を越えた作業安全対策に係る気運の醸成を図ることを目的とする。

### 2. 事業の実施期間

令和4年11月9日から令和5年3月10日まで

### 3. 事業の概要

#### (1) 作業安全推進ウェビナーの開催

農業、林業、木材産業、漁業、食品産業の5分野において、作業安全推進ウェビナーを開催することとし、会場・資機材の確保・運営、講演者との連絡調整、開催周知、参加者の募集・連絡を行った。詳細は次の通り。

##### ① 開催方法

開催方法はZoomウェビナーによるオンライン方式とし、YouTubeによるライブストリーミング配信も行った。ホスト会場として、農林水産省の会議室および中部産業連盟東京事業部のセミナールームを使用し、オンライン配信に必要な資機材（ミーティングアプリケーション、PC等ホスト端末、マイク、スピーカー、カメラ等）を用意した。また、ホスト会場の運営を務める担当者を3名配置した。

作業安全推進ウェビナーの内容は、各分野の事業者、関係団体、メーカー、研究機関、行政等を集めた安全対策に関する情報発信や意見交換を行う内容とし、発注者が企画した。

##### ② 開催日時

令和5年2月13日から2月16日の4日間で開催した。1日ごとに1分野の開催とし、13日に農業分野、14日に林業・木材産業分野、15日に漁業分野、16日に食品産業分野を開催した。日程は、講演者との調整を踏まえ、発注者において決定した。

③ 講演者との連絡調整

発注者が、農業ウェビナーで10名、林業・木材産業ウェビナーで3名、漁業ウェビナーで8名、食品産業ウェビナーで6の計27名の講演者を選定した。受託者にて、各講演者との事前の接続テストを実施するとともに、謝金精算などの連絡事務を行った。

④ 開催周知

受託者にて、作業安全推進ウェビナーを周知するポスター（A1版・片面・4色刷）及びチラシ（A4版・両面・4色刷）を作成するとともに、印刷した紙媒体、印刷原稿の電子ファイル（PDF形式）を納入した。

また、作業安全推進ウェビナーを周知し、参加者募集を行う専用サイト及び参加者との連絡用メールアドレスを受託者にて用意した。専用サイトの構築等に必要となるサーバー等は受託者で確保した。

⑤ 参加者の募集・連絡

上記で作成した専用サイト及び連絡用メールアドレスを通じて、参加者の募集を行うとともに、参加者に追加情報（資料掲載等）の案内、オンライン配信URLの送付、アンケート協力依頼その他の連絡を行った。

## （2）作業安全普及ステッカーの作成

農業、林業、木材産業、漁業、食品産業の5分野における、事故事例、対策や作業安全規範などの周知を目的とした作業安全普及ステッカーを作成した。デザイン制作は、くまみね工房合同会社に委託し、作業安全をテーマとした「仕事猫」をキャラクターに設定した。

## （3）成果物の提出

作業安全推進ウェビナーの開催概要、参加者アンケートの集計・分析結果などを収録した成果報告書（本書）を作成・納入するとともに、イベント当日にZoom配信した動画データについて、不要部分のカットや、講演者毎にクリップ編集をし、電磁的記録媒体（USBメモリ及びBD-R）に保存して発注者に納入した。

参加者アンケートについては、ウェビナーの参加者の属性を把握するとともに、開催内容への意見や、今後の作業安全対策の推進に関する意見を把握することが可能となるよう設問を検討し、発注者と協議の上、決定した。

(4) 業務の実施スケジュール

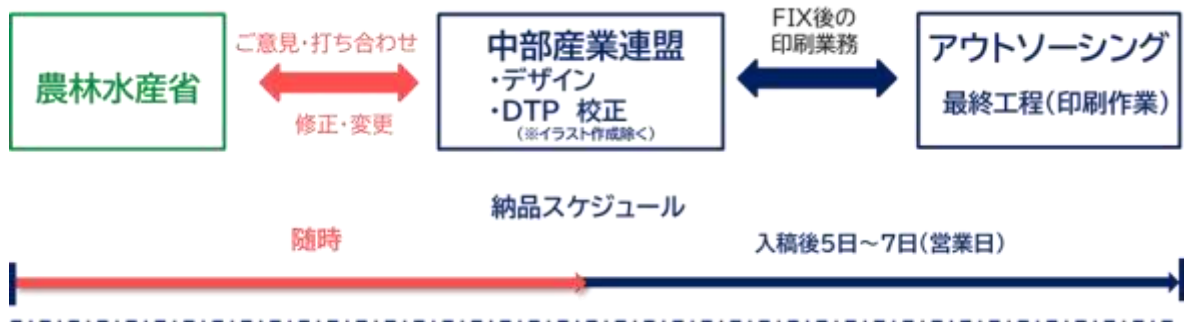
	11月	12月	1月	2月	3月
受託者	<p>● 打合せ協議</p>	<p>● ポスター等制作 ステッカー制作</p> <p>● 専用サイト構築、運営</p> <p>● 機材確保</p>	<p>● 参加者募集</p> <p>● リハーサル</p>	<p>● 講演者の接続テスト</p> <p>● イベント運営</p>	<p>● 動画編集 アンケート分析</p>
発注者	<p>● 講演者決定・会場確保</p>	<p>● ウェビナー準備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講演資料確認</li> <li>・ パネリストの選定</li> <li>・ 議事次第の作成</li> <li>・ アンケート内容確認</li> <li>・ 参加者募集</li> </ul>		<p>● イベント運営</p>	<p>● 成果物の確認</p>

## 第2 実施業務の詳細

### 1. イベント準備

#### (1) チラシ・ポスター制作

制作にあたり、デザイン・DTP等は受託者自ら行い（内製化を図り）、最終工程である印刷業務のみをアウトソーシングすることにより、コストの削減を図った。また、これにより、校正等にかかるリードタイムを短縮し、より発注者の意図を組んだ完成度の高いチラシやポスターを制作できるよう努めた。



#### ポスター制作

A1版にて30部納品した。仕様は発注者と協議し、片面4色刷/マットコート135とした。



#### 作成時のポイント

本イベントの参加対象となる4分野（農業・林業・漁業・食品産業）の参加見込み数などを鑑み、ポスター写真の構成やサイズ選定を行った。

また、写真の発色を考慮しつつ、視認性を良くするため、光の反射を抑えた、マットPP加工を行った。

全体カラーは発注者イメージを損なうことなく設定し、細部に“安全”をイメージするイラストの差し込みなどを行った。

## チラシ制作

A4版にて30部納品した。仕様は発注者と協議し、両面4色刷り／コート90とした。

(裏面)

(表面) ポスターと同様

最新版はWEBサイトをチェック！

作業安全推進Week 検索

**スケジュール**

作業安全推進のための会議・ウェビナー(分野ごとに開催)  
各分野の現場の事業者、関係団体、研究機関、行政等から、安全対策に関する情報の発信を行います。

2月13日(月) 14:00～16:00	概要	講演者	農業
【令和5年春の農作業安全確認運動推進会議】			
1	令和4年の農作業安全確認運動の取組状況と令和5年の方針について	農林水産省	
2	農業機械メーカーからの取組状況の報告	農業機械メーカー	
3	地域における取組状況の報告	都道府県	
2月14日(火) 14:00～16:00	概要	講演者	林業・木材産業
1	林業の労働災害の近年の特徴(講演)	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業工学研究領域 省力化技術研究室 主任研究員 橋本 雄大 氏	
2	林業労働安全衛生装備・装置の普及と課題(講演)	株式会社森林環境リライズ 専務取締役 石山 浩一 氏	
3	外山木材株式会社における作業安全の取組について(講演)	外山木材株式会社 製造部長 西久保 有亮 氏	
2月15日(水) 14:00～16:00	概要	講演者	水産業
1	漁業における火災事故の原因及び対策について(講演)	運輸安全委員会 事務局 総務課 事故防止分析室専門官 漆谷 伸介 氏	
2	漁船の安全対策に関する優良な取組について(講演)	公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター 事業部長 柴田 光晃 氏	
3	スマホ用AISアプリについて(講演)	日清紡ホールディングス株式会社経営戦略センター デジタルビジネス推進室 専門課長 小島 和也 氏	
2月16日(木) 14:00～16:00	概要	講演者	食品産業
1	食品業界の労働災害防止について(講演)	中央労働災害防止協会 技術支援部 上席専門員 倉上 晋行 氏	
2	不二製油グループの安全啓発活動に関して(講演)	不二製油グループ本社株式会社 生産性推進グループ 生産性推進チーム チームリーダー 伊藤 一孝 氏	
3	置き転倒防止と健康維持を目指して開発した業間体操(講演)	キッコーマン食品株式会社 人事部長 長島 宏行 氏	



お問い合わせ先

農林水産省委託事業事務局 一般社団法人中部産業連盟 東京事業部  
担当:砂田・専河江  
E-mail: anzen-week@chusanren.or.jp

農林水産省

## 作成時のポイント

各分野のイメージイラストを作成し、イベントの全体像を視覚的にアプローチする工夫をした。講演内容は順次更新されていくため、最新版となる特設サイトへの誘導をPOP表記し、参加希望者のサイト誘導を図った。

## (2) 専用サイトの構築・運用

イベント周知及び参加者募集のため、受託者が保有するクラウドサーバー内にて専用サイトを構築し、運用した。なお、構築はコンテンツボリュームや申込者の視認性を鑑み、LP（ランディングページ）とした。

講演者や講演概要の修正及び追加、動画や資料の埋め込み、リンク作成、申込フォーム作成、イベント終了後の更新など、イベント終了までに十数回の更新を行った。

令和5年1月20日の発注者による開催プレスリリースに合わせ運用を開始し、イベント期間中も、ライブストリーミング配信するYouTubeのリンクを掲載するなど、随時更新に努めた。

### 専用サイト（上部）

中産連

農林水産省委託事業事務局 一般社団法人中部産業連盟

お申し込みはこちら

—若者が自らの未来を託せる産業にするために—

# 見直そう!安全対策

農林水産業・食品産業

# 作業安全推進 Week

全国どこからでも参加可能  
誰でも参加無料

Zoomウェビナーご参加時の操作につきまして  
↓事前にごこちらの解説動画をご覧ください↓



## 作成時のポイント

ポスター及びチラシのイメージと乖離しないようTOPにはポスター等と共通の画像とイラストを活用した。また、サイト内部だけでなく、右上に申込フォームへのリンクを設置し、ユーザーの利便性を向上させた。

加えて、専用サイトの上部には当日のウェビナー視聴者操作の解説動画を設置し、当日の運営負担を軽減した。イベント終了時までには278回の視聴があり、参加者への事前周知が行き届いたと考えられる。

## 専用サイト（中部～下部）シンポジウムの概要



農林水産省委託事業事務局 一般社団法人中部農業連盟

お知らせ 農林水産業・食品産業 作業安全推進Weekは終了いたしました。

令和5年2月13日から16日まで開催  
**「農林水産業・食品産業 作業安全推進Week」**

**作業安全推進のための会議・セミナー（分野別開催）**

	<p><b>〔農業分野〕 令和5年春の農作業安全確認運動推進会議</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>令和4年の農作業安全確認運動の取組状況と令和5年の方針について (農林水産省)</li> <li>農業機械メーカーからの取組状況の報告 (農業機械メーカー)</li> <li>地域における取組状況の報告 (都道府県)</li> </ol>	<p><b>2月13日(月)</b> 14:00～16:00</p>
	<p><b>〔林業・木材産業分野〕 林業・木材産業 作業安全推進ウェビナー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講演 林業の労働災害の近年の傾向 (国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業工学研究領域 省力化技術研究室 主任研究員 津保 雄次 氏) <a href="#">資料のダウンロード</a></li> <li>講演 林業労働安全衛生設備・装置の普及と評価 (株式会社京林産業リアライズ 専務取締役 石山 浩一 氏) <a href="#">資料のダウンロード</a></li> <li>講演 赤山木材株式会社における作業安全の取組について (赤山木材株式会社 製造部長 高久保 義典 氏)</li> </ol> <p><a href="#">その他関連資料のダウンロードはこちら</a></p>	<p><b>2月14日(火)</b> 14:00～16:00</p>
	<p><b>〔水産分野〕 漁業 作業安全推進ウェビナー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講演 漁業における火災事故の原因及び対策について (運輸安全委員会 事務局 総務課 事故防止対策室 専門官 渡辺 伸介 氏)</li> <li>講演 漁船の安全対策に関する最新の取組について (公益社団法人北海道海難防止・水難対策センター 事業部長 柴田 光典 氏)</li> <li>講演 スマートAISアプリについて (日本船舶ホールディングス株式会社経営戦略センター デジタルビジネス推進室 専門課長 小島 和也 氏)</li> </ol> <p><a href="#">資料一式のダウンロードはこちら</a></p>	<p><b>2月15日(水)</b> 14:00～16:00</p>
	<p><b>〔食品分野〕 食品産業 作業安全推進ウェビナー</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>講演 食品業界の労働災害防止について (中央労働災害防止協会 技術支援部 上席専門員 倉上 繁行 氏)</li> <li>講演 不二製油グループの安全啓発活動に関して (不二製油グループ株式会社 生産性推進グループ 生産性推進チーム チームリーダー 伊藤 一幸 氏)</li> <li>講演 働き方改革防止と健康維持を両立して実現した実例を (フットーマン食品株式会社 人事部長 高橋 孝行 氏)</li> </ol> <p><a href="#">資料一式のダウンロードはこちら</a></p>	<p><b>2月16日(木)</b> 14:00～16:00</p>

## 作成時のポイント

講演資料については、あらかじめ専用サイトにアップロードし、ダウンロードされた件数の管理を行った。

講演内容等を順次更新していくため、フレキシブルに対応できるよう、シンプルなデザインで作成した。

## 専用サイト（参加申込フォーム）

**※送信ボタンをクリックしても送信できないときには**

WebブラウザInternet Explorerで申し込みフォームをご利用の際に「送信ボタンをクリックしても送信できない」という現象が確認されています。そのような場合は、お手数ですが別のWebブラウザ（例：Google Chrome、Microsoft Edge）でのご利用をお試しください。

### 参加お申し込み

**お名前** 必須  
田水 太郎

**お電話番号** 必須  
080-0000-0000

**メールアドレス** 必須  
xxxx@example.com

※今後、中部産業連盟イベント情報等の配信が不要の場合は、上記「送信したメールアドレスでお知らせ配信に登録する」のチェックを外してください  
※記憶不要欄

**企業・所属・団体名** 必須  
個人でお申し込みの方は“個人”とご記載ください

**参加希望（複数選択可）** 必須

- 〈農業分野〉 令和5年春の農作業安全確認運動推進会議（2月13日）
- 〈林業・木材産業分野〉 林業・木材産業 作業安全推進ウェビナー（2月14日）
- 〈水産分野〉 漁業 作業安全推進ウェビナー（2月15日）
- 〈食品分野〉 食品産業 作業安全推進ウェビナー（2月16日）

報道関係の皆様へ  
 取材を希望される場合は、チェックを入れてください

**送信**

※ 本事業の委託事業者である一般社団法人中部産業連盟の個人情報保護方針をお読みの上、同意して送信して下さい。

## 作成時のポイント

発注者と協議し、1. 氏名、2. 電話番号、3. メールアドレス、4. 企業・所属・団体名、5. 参加希望イベント、6. 取材希望の有無の6項目をフォームに設定した。参加希望イベントの項目は複数選択可とし、分野ごとの申込者数を一元管理できるようにした。

Internet Explorer のブラウザで申込フォームを送信する際に「送信ボタンをクリックしても送信できない」という現象が確認されたため、その旨を追記し、注意喚起をおこなった。

タブレット端末やモバイル端末からのサイトアクセスも想定されたことから、各デバイスでの表示最適化をおこなった。

## タブレット



## モバイル



### 申込情報のCSV出力と発注者へ情報共有

専用サイトからの申込情報については、CSV出力し、名簿フォーマットへの変換をして管理した。フォームに記載されたメールアドレスに誤りがあった場合は、リマインドメールの不通などから把握し、入力された電話番号に連絡し、状況の確認を行った。

発注者には、定期的に申込情報を共有し、参加者募集の強化に向けた参考情報として活用してもらった。

### 名簿フォーマットのイメージ

(集計ページ)

2月13日(月)〈農業分野〉令和5年春の農作業安全確認運動推進会議	2月14日(火)〈林業・木材産業分野〉林業・木材産業 作業安全推進ウェビナー	2月15日(水)〈水産分野〉漁業 作業安全推進ウェビナー	2月16日(木)〈食品分野〉食品産業 作業安全推進ウェビナー	報道関連
51	308	60	92	6

(参加者一覧)

参加希望 (複数選択可)	2/13 農業分野	2/14 林業・木材産業分野	2/15 水産分野	2/16 食品分野
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				

### (3) リスティング広告の実施

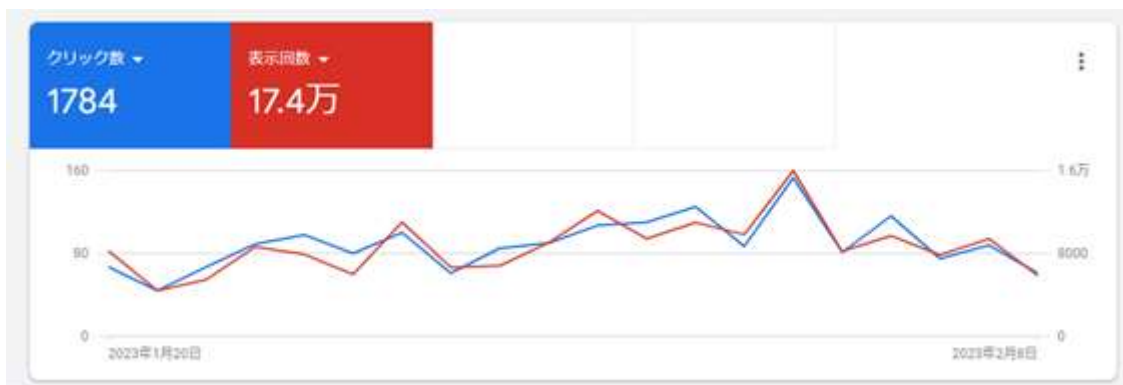
作業安全に興味・関心を持つ方々に向け、検索サイトに上位表示されるリスティング広告を実施した。掲載期間は令和4年1月20日～2月8日とし、表示回数：174,000回、クリック数：1,784回の成果を得た。

モバイル端末による表示が全体数の81.4%と最も多く、性別および年齢別によるクリック率では、45～54歳以上男性が全体数の22.6%、ついで35～44歳男性が17.6%であった。また掲載につながった主な検索ワードとしては、“安全対策”、“作業安全”、“労働災害”などであった。

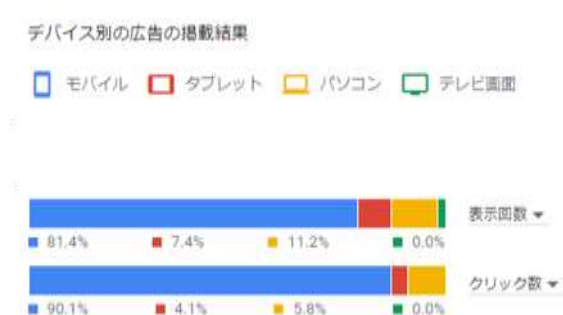
#### リスティング広告のイメージ※複数表示パターンあり



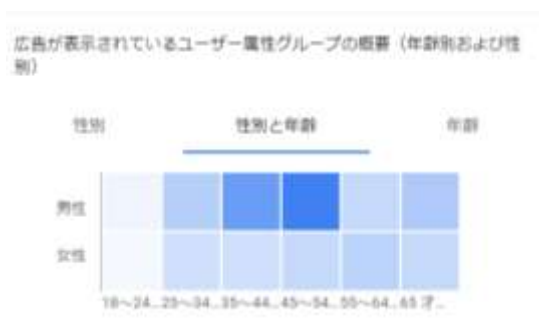
#### 表示回数及びクリック数の時系列変化



#### 表示されたデバイスの割合



#### 性別及び年齢によるクリック率



#### (4) 講演者の選定及び連絡調整

講演者の選定、講演日程の調整及び資料作成依頼については発注者が行い、受託者は、発注者から提供のあった講演者名簿に基づき、それ以降の、接続テストの実施、イベント当日のパネリスト URL の案内、謝金精算に関する連絡などの連絡調整を行った。農林水産省の講演者および外部講演者計 27 名を選定することとなり、その者との連絡調整を行うこととなった。

27 名の講演者に連絡し、接続テストの実施、Zoom ウェビナーの使用方法的説明（画面共有の方法、ログイン方法など）、謝金支払いの可否や振込口座等の把握を行った。

#### 講演者一覧

##### 農業分野 10 名

1. 群馬県農政部技術支援課 飯塚 弘明氏
2. 鹿児島県庁 松比良 邦彦氏
3. 株式会社クボタ 機械業務部 山口 紳也氏
4. ヤンマーアグリ(株) CS 統括部 品質保証部 坂本 俊憲氏
5. 井関農機株式会社 中村 元紀氏
6. 三菱マヒンドラ農機(株) 営業戦略統括部 久木 誠氏
7. (一社) 全国農業改良普及支援協会 齊藤 総幸氏
8. 新潟県立村上桜ヶ丘高校 伊藤 久美子氏
9. 新潟県立村上桜ヶ丘高校 本間 翠氏
10. 新潟県立村上桜ヶ丘高校 小倉 陽人氏

##### 林業・木材産業分野 3 名

1. 国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 猪俣 雄太氏
2. 株式会社森林環境リアライズ 石山 浩一氏
3. 株式会社外山木材 西久保 有亮氏

##### 漁業分野 8 名

1. 日清紡ホールディングス株式会社 小島 和也氏
2. (公社) 北海道海難防止・水難救済センター 柴田 光晃氏
3. (国研) 水産研究・教育機構水産技術研究所 高橋 秀行氏
4. (一社) 大日本水産会 内海 和彦氏
5. 城ヶ崎海岸富戸定置網(株) 日吉 直人氏
6. 全国漁業協同組合連合会 漁政部 三次 亮氏
7. 運輸安全委員会事務局 総務課 漆谷 伸介氏
8. (株)クニエ 今 真理子氏

##### 食品産業分野 6 名

1. 中央労働災害防止協会 技術支援部 倉上 智行氏
2. 不二製油グループ本社株式会社 伊藤 一孝氏
3. キッコーマン食品株式会社 人事部長 長島 宏行氏
4. 株式会社叙々苑フードファクトリー 工場長 浅井 幸一氏

- |                               |
|-------------------------------|
| 5. 厚生労働省 安全課 中央産業安全専門官 澤田 京樹氏 |
| 6. 農林水産省大臣官房新事業 食品産業部 尾崎 卓也氏  |

## (5) 会場・資機材の確保

会場については、農林水産省の特別会議室および中部産業連盟のセミナールームを使用した。(大型モニター既設、有線 LAN による高速インターネット回線あり) 受託者がオンライン配信に必要となる資機材を確保し、会場設営を行った。また、発注者より講演者が配信するためのパソコンについての貸し出し要望があった際には、これに応え、パソコンを確保し、講演者がスムーズに講演できるよう努めた。

## (6) 参加者募集・対応

### ① 参加者募集の流れ

ポスター・チラシの納品、専用サイトの構築に合わせ、発注者が参加者募集を開催する旨のプレスリリースを開始するとともに、チラシ PDF のメール送付により、都道府県、関係団体、省内関係部局への周知を通じて参加者募集を行った。

受託者側では、受託者が団体として配信しているメールマガジンの発行のほか、本業務で作成した専用サイトの運営、リスティング広告の活用を通じて募集を行った。

参加者募集は、ウェビナー URL のメール送付、会場設営等の直前の事務量を踏まえ、2月8日を締切日とした。

### ② 参加者連絡の基本方針

参加申込みは、専用サイトの申込フォームに一本化し、電話やメールでの申込みを排除することで、情報管理の効率化を図った。参加申込以降の連絡は、専用メールアドレスを使用し、原則としてメール対応とした。ただし、メールアドレスに誤りがあるなど、必要性がある場合については、受託者から申込時に登録してもらった参加者の電話番号に連絡し、以降のメール連絡を円滑におこなえるよう個別対応に努めた。

申込受付の確認手段として、エントリーフォームの送信者に自動返信メールを送信することとした。

## (7) Zoom ウェビナーの設定

### ① 参加者の設定

一般参加者については、Zoom ウェビナーの機能にそって、チャット機能と Q&A 機能を使用できるものとし、マイク OFF、カメラ OFF での参加とした。なお、一部のウェビナーでは、当日に、発言機能を付与し、一部の参加者に発言機会を与えることとした。

イベント初日である2月13日の作業安全推進ウェビナーから最終日の2月16日まで、統一した招待リンク (URL) とし、イベントごとで別々の URL を記載したメールを送ることを控え、参加者に混乱が生じないようにした。

招待メールは、参加を促すため、イベント初日の1週間前から送信するとともに、リマインドメールを1営業日前に送信した。メール送信は、一斉送信メールソフトを使用し、効率化を図った。

メール文面には、Zoom の接続方法に関する補足や、イベント終了後のアンケートへの協力依頼も記載した。

## ② 講演者の設定

発注者などのイベント関係者や外部講演者、その他意見交換に参画する有識者については、発言機能等を付与するため、パネリスト権限をあらかじめ付与することとした。発注者がパネリスト権限を付与する関係者名簿を作成し、受託者においてパネリスト設定をおこなった。対象者は全イベントを通算し、27名（農業分野0名、林業・木材産業分野9名、漁業分野18名、食品産業分野0名）であった。

なお、一般参加者と同様に、招待メールから参加してもらい、イベント当日にパネリストに昇格させる運用では、イベント開始直前の事務量が増えてしまうことから、イベント開始前にあらかじめパネリスト設定をおこない、パネリスト専用 URL を事前送付することで対応した。これにより、イベント当日の準備がスムーズにおこなえた。また、パネリストの当日未参加を防ぐため、パネリスト専用 URL を送付した以降に、当該 URL を記載したメールが受信できているか、個別連絡を実施して確認を行い、確実なウェビナーへの入室を促進した。

## (8) アンケートフォームの設定

シンポジウムやウェビナーの参加者の属性を把握するとともに、開催内容への意見や、今後の作業安全対策の推進に関する意見を把握することが可能となるよう設問を検討し、発注者と協議し、アンケート内容を決定した。アンケートの設問については結果とともに後記する。

アンケートの手法には Zoom ウェビナーの機能を使用した。これは、参加者がウェビナーの退出ボタンを押した際に、アンケートフォームが画面上にポップアップする仕様である。アンケートフォームを別途の URL で用意するよりも、その場で回答を求めることができるため、回答率の向上に寄与できたと考えられる。

## 2. イベント実施

### (1) イベントの実施体制

#### ① 人員体制

イベントの事務局員として受託者から3名を会場に配置した。当日の役割がわかるように、事前に役割分担表を作成した。当日の詳細スケジュール（機材の設置、機材操作、画面確認、作業の開始終了時刻等）、実施事項、主担当者、サポート担当者を明確にした。司会進行は発注者にて対応した。発表資料の画面共有は、各講演者が各自対応することを基本とし、事務局員はウェビナー運営に注力することとした。ただし、事前収録動画を放映するものについては、講演者の回線環境による影響を排除するため、会場の事務局 PC にて操作することにするなど、イベント内部の業務についても、一部担った。

#### ② ウェビナーの配信方法

Zoom ウェビナーを使用し、YouTube によるライブストリーミング配信を同時におこなった。YouTube アカウントは本事業専用のものを作成した。YouTube 配信については事前に Zoom との連携を行い、視聴 URL を専用サイトに掲載した。

Zoom ウェビナーの利用プランは参加申込数を踏まえ、参加者定員 500 名、パネリスト最大 100 名までの登録が可能なプランとした。

### ③ 機材確保

事前にレイアウト案を作成したうえで、必要なパソコン、マイク、スピーカーシステム等の機材準備計画を立案した。準備したもので対応可能かどうか、イベント2週間前にリハーサルを行った。

メインホスト、サブホスト、参加者画面確認用等のパソコンの割当計画を事前に作成し、数台のパソコンにより、資料共有操作、チャット対応、Q&A 対応、動画録画対応、画面確認対応等を分担して実施した。

マイク、スピーカーは、Web 会議専用のスピーカーフォンシステムを準備した。マイクはメインの web マイク 3 台、サブとして有線マイク 2 本が接続可能なシステムを用意した。

インターネット回線は、農林水産省特別会議室および中部産業連盟セミナールームの有線 LAN を使用した。

## (2) イベントの主な内容

### ① 農業分野 作業安全推進ウェビナー 2月13日 14:00~16:00

#### プログラム a.

タイトル：「令和5年度春の農作業安全確認運動の展開等について」  
(農林水産省 農産局 技術普及課)

#### プログラム b.

タイトル：「国内農業機械メーカーにおける農作業安全対策について」  
(井関農機(株)、(株)クボタ、三菱マヒンドラ農機(株)、ヤンマーアグリ(株))

#### プログラム c.

タイトル：「地域における取組状況」  
(群馬県農政部技術支援課、鹿児島県農政部経営技術課)

#### プログラム d.

タイトル：「事故当事者が感じたキーワード～農作業事故の思わぬ影響～」  
(全国農業普及支援協会)

#### プログラム e.

タイトル：「農作業事故ゼロを目指し！～農作業事故ゼロプロジェクト～」  
(新潟県立村上桜ヶ丘高等学校)

#### プログラム f.

意見交換会

### ② 林業・木材産業分野 作業安全推進ウェビナー 2月14日 14:00~16:00

#### プログラム a.

タイトル：「林業・木材産業における労働災害対策の取組事例」  
(林野庁経営課)



**プログラム b.**

タイトル：「林業の労働災害の近年の特徴」  
(森林総合研究所)

**プログラム c.**

タイトル：「林業労働安全衛生装備・装置の普及と課題」  
(株式会社森林環境リアライズ)

**プログラム d.**

タイトル：「外山木材株式会社における作業安全の取組について」  
(外山木材(株))

**③ 漁業分野 作業安全推進ウェビナー 2月15日 14:00～16:00**

**プログラム a.**

タイトル：「漁業における作業安全対策の状況について」

- ・ 漁業における事故の発生状況について  
(水産庁漁政部企画課)
- ・ 漁業分野におけるオンライン作業安全学習教材について  
(株クニエ)
- ・ 漁業における火災事故の原因及び対策について  
(運輸安全委員会)

**プログラム b.**

タイトル：「現場における作業安全の取組 漁船の安全対策に関する優良な取組について」  
(北海道海難防止・水難救済センター)

**プログラム c.**

タイトル：「作業安全に資する新技術の開発・導入状況 スマホ用 AIS アプリについて」  
(日清紡ホールディングス(株))

**プログラム d.**

タイトル：「意見交換会 漁業現場における作業安全の普及啓発」  
(水産研究・教育機構)

**④ 食品産業分野 作業安全推進ウェビナー 2月16日 14:00～16:00**

**プログラム a.**

タイトル：「意見交換会 漁業現場における作業安全の普及啓発」  
(大臣官房新事業 食品産業企画グループ)

**プログラム b.**

タイトル：「安心して安全に働ける職場環境の実現のために」  
(労働基準局安全衛生部安全課)

**プログラム c.**

タイトル：「食品業界の労働災害防止について」  
(中央労働災害防止協会)

**プログラム d.**

タイトル：「躓き転倒防止と健康維持を目指して開発した業間体操」  
(キッコーマン食品(株))

**プログラム e.**

タイトル：「叙々苑フードファクトリーにおける 5S 活動、業務改善による人材育成」  
(株叙々苑フードファクトリー)

**プログラム f.**

タイトル：「不二製油グループの安全啓発活動に関して」  
(不二製油グループ本社(株))

**(3) ウェビナー参加者数及び YouTube 視聴者数**

単位：人

イベント名	申込者数 (延べ)	Zoom 参加者数 (延べ)	YouTube 視聴者数 (延べ)
農業分野	233	155	108
林業・木材産業分野	309	190	97
漁業分野	61	28	47
食品産業分野	93	52	25
合計	696	425	277

### 3. アンケート結果

Zoom による視聴者に WEB アンケートを実施した。各イベントの回答結果は以下の通りである。なお、回答は任意であり、参加者数の合計とアンケートの回答者数は一致しない。

**(1) 2月13日 農業分野「令和5年春の農作業安全確認運動推進会議」**

173名の参加者から、90の回答を得た(回答率52%)。集計結果は次の通り。

1 あなたの所属についてお教えてください（択1）

所属	回答数
・農林水産業・食品産業の従事者	1
・農林水産業・食品産業の関連企業・団体	26
・その他分野の企業・団体	7
・行政機関（国、都道府県、市町村）	42
・研究機関	10
・その他（報道関係者）	4
	90

2 今回のイベントは、作業安全について考えるきっかけとなりましたか（択1）

選択肢	回答数
・大いになった	62
・ある程度なった	25
・どちらともいえない	3
・ならなかった	0
計	90

3 今回のイベントで、作業安全の取組に向けて役立つ情報がありましたか（択1）

選択肢	回答数
・大いに得られた	50
・ある程度得られた	40
・どちらとも言えない	0
・得られなかった	0
計	90

4 今回のイベント開催をどこで知りましたか（択1）

選択肢	回答数
・ポスター／チラシを見た	0
・イベントのホームページを見た	5
・国（農林水産省からの連絡、ホームページ閲覧）から	71
・自治体（都道府県、市町村）から	3
・団体（農協など）から	7
・イベント事務局（中部産業連盟）から	0
・その他知人などから	4
計	90

5. 今回のイベント開催方法についてどう思いますか（択1）

選択肢	回答数
・今回のようにオンライン開催が良い	61
・対面開催がよい（オンラインでは不十分だった）	1
・対面開催としつつ、オンライン配信もしてほしい（選択できると良い）	27
計	89

6. このイベントについて、来年も参加したいですか（択1）

選択肢	回答数
・参加したい	80
・どちらとも言えない	10
・参加しない	0
計	90

7. 興味をもった内容、自職場で実践したいと感じた内容など、感想をお聞かせください（自由記載）

GAPの基本は整理整頓と見える化 高校生のみなさんから指摘をうけてドキッとすると同時に身が引き締まる気持ちがありました。
JA 共済連とのVR体験を県協議会で開催できないか検討したい。
メーカーや他県の農作業安全に向けた取り組みを知ることができ大変有意義だった。担当地域において、農作業安全の啓蒙活動（声かけ活動やヒヤリハットの共有に向けた取り組み等）を進めたいと感じた。
各話題提供者や関係機関の農作業安全の取り組みの真摯な取り組みを大変心強く思うとともに、当方の、これからの取り組みに大いに参考となりました。ありがとうございました。
危険の意識があっても行動が伴わない。いかに行動に移していただけるか。従来からの変わらぬ課題と思いますが、やはり声掛け・研修による対面での指導が活動のメインであることを再認識しました
危険を認識していても行動につながっていないことがよく分かった。どのように行動につなげさせるかについて、検討していきたい。
議題3の県の事例発表について、関係機関との連携体制の構築や具体的な取組等が参考になった。また、議題4の事故当事者への調査に基づいた発表はリアリティが高く、事故を「自分事」として捉えてもらうのに非常に効果的と感じた。農作業安全指導者が研修を実施する際に役立ててもらいたい。議題5については、発表者の事故をなくしたいという強い思いが印象的であり、また実際のアンケートに基づいた調査内容は今後の啓蒙を進める上で参考になった。ヒヤリハット認知度に対する対策実践者が想定以上に少なく、行動変容にまでつなげることの難しさを感じた。書き切れないので割愛させていただきますが、他の議題も大変勉強になりました。ありがとうございました。
県の農作業安全指導者が最大限活動できるよう尽力します。
群馬県さんの取組内容、警察と連携し、速やかに情報収集を図っていること。（当県では情報収集に時間がかかってしまうことが多いため）
警察署と連携し、事故情報のデータ収集、事故防止対策等を実施したいと思った。

講習の場をもって、多くの人に農作業安全の知識や、農作業事故のヒヤリハット等について考えることが重要であると感じた。
高校生によるアンケート結果に衝撃を受けた。
高校生のプレゼンが素晴らしかった。
高校生の取り組み方が実践的で良いと思います。地域の状況を調査し、アンケートで数値化することで何をすべきかが見えるという事がわかりました。
高校生の取り組んだ発表は大変良かったです
高校生の取組
高校生の調査事例を聞き、農業者自身が普段の農作業で危険な箇所を把握しているにもかかわらず、具体的な対策を講じておらず、多くのヒヤリハット事例があったということは新たな発見でした。
高校生の発表、とても頼もしく感じました。来年の会議での続報を期待しています。
高校生の発表がまとまっており、わかりやすく、内容も充実し、このまま運動展開をしても良いと感じました。
高校生の発表が素晴らしかった。高校生でもこれだけのことができるなら、大人はもっとやれることがあるはずだ。
今回の会議を通して考えたことは「啓蒙活動を知っていれば、事故を回避できていたのか」という事でした。 「知っている、やっていない」データから、「啓蒙活動→自分事として捉える→実行→事故回避」の「自分事として捉える」を如何に充実させるかがポイントだと思いました。 そういった意味では「恐怖」に訴えかける「VR 体験」は非常に効果的だと思います。もう一方で実行すれば「いい事がある、優遇される」ということも必要ではないかとも思います。 例えば「サポカー補助金」の様に安全対策が高い農機具の購入に補助金を出す、JGAP の認証に取り組めば 共済掛金が割引される／保証が充実する。 それからこれは非常に気の長い話になりますが、農産物を買うお客さんが JGAP 認証農産物を積極的に購入する 社会を醸成していくことが必要だとも思います。
取組を展開していく上では、各関係機関の役割分担をきちんと整理する必要があると感じた。 市町村や JA が通常業務に忙殺されながらも、どの程度の活動ならば一緒に協力できるのか整理して、より多くの農業者に安全の意識啓発を働きかけられるのか検討していきたい。
新潟県の高校生の発表、大変すばらしいものでした、ありがとうございました。
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校の、農作業安全についてのアンケート調査・集計を実施し問題提起について大変参考になる発表でした。今後とも農作業事故の撲滅に向け活動していきたいと思います。本日は大変ご苦労様でした。
新潟県立村上桜ヶ丘高等学校の生徒の皆さんの発表がとても素晴らしく、感銘を受けました。
新潟県立村上桜ヶ丘高校の発表で農作業中のヒヤリハットやシートベルトの着用に関して重要性の認識と行動の乖離について現場に呼び掛けていだけでなく、GAP の推進等で実践させることの重要性を知れて非常に参考になりました。
全体を通じて内容の濃いイベントだったが、最後の新潟県村上桜ヶ丘高校の発表が特に感銘を受けた。 何が課題かを見出し、情報を収集し、その分析を行い、対応策を練り検証する、というまさに GAP の流れを行い、 周りの方々へ発信していく姿勢に感動した。今後活かしてほしい。
他県の農作業安全の取り組み状況を聞き、大変参考になりました。

農業系高校の生徒に農作業安全研修等を実施することで、家族（高齢農業者）への声掛けが促進されるのではないかと感じた。
農作業安全の本質的課題が議論され、たいへん有意義な会議でした。これからも農業者の態度変容、習慣化に向け、尽力して参りますので、引き続きご指導をお願い申し上げます。
農作業安全を進めるためには、高齢者の農作業事故をいかに無くしていくか、そのための対策の重要性や啓発活動、また農業者の皆さんの農作業安全に対する意識を高め、それをどう行動変容・具体的な対策につなげていくのか等が重要な課題であることが理解できたと思います。加えて、労災保険の特別加入についても農水省としてもより重要課題として取り組んで欲しいと思います。
品目横断型で農作業安全研修を行う。
本県で課題に感じていた部分も他県も課題に感じていて、その課題に対する改善策について考えることができ有意義な時間となった。

## （２） 2月14日 林業・木材産業分野「林業・木材産業 作業安全推進ウェビナー」

197名の参加者から、135の回答を得た（回答率69%）。集計結果は次の通り。

### 1 あなたの所属についてお教えてください（択1）

所属	回答数
・農林水産業・食品産業の従事者	21
・農林水産業・食品産業の関連企業・団体	42
・その他分野の企業・団体	11
・行政機関（国、都道府県、市町村）	57
・研究機関	2
・その他（報道関係者）	2
	135

### 2 今回のイベントは、作業安全について考えるきっかけとなりましたか（択1）

選択肢	回答数
・大いになった	44
・ある程度なった	87
・どちらともいえない	3
・ならなかった	0
計	134

3 今回のイベントで、作業安全の取組に向けて役立つ情報がありましたか（択1）

選択肢	回答数
・大いに得られた	36
・ある程度得られた	89
・どちらとも言えない	10
・得られなかった	0
計	135

4 今回のイベント開催をどこで知りましたか（択1）

選択肢	回答数
・ポスター／チラシを見た	4
・イベントのホームページを見た	1
・国（農林水産省からの連絡、ホームページ閲覧）から	54
・自治体（都道府県、市町村）から	48
・団体（農協など）から	17
・イベント事務局（中部産業連盟）から	0
・その他知人などから	8
計	132

5 今回のイベント開催方法についてどう思いますか（択1）

選択肢	回答数
・今回のようにオンライン開催が良い	98
・対面開催がよい（オンラインでは不十分だった）	1
・対面開催としつつ、オンライン配信もしてほしい（選択できると良い）	35
計	134

6 このイベントについて、来年も参加したいですか（択1）

選択肢	回答数
・参加したい	109
・どちらとも言えない	26
・参加しない	0
計	135

7.興味をもった内容、自職場で実践したいと感じた内容など、感想をお聞かせください（自由記載）

2024年1月から防護ズボンにJIS2022のものとするのは重要事項だと思いました。
60歳以上の死亡率の高さと伐倒の関係
アシストスーツなどについても紹介してほしい。
オンラインで視聴できない事業者もいるので、リアル+オンラインでブロック単位での開催を検討していただきたい。
ヒヤリハットの毎日の報告については当社でも導入していきたいと考えます。
ほぼ同じことをやっているが災害が無くならない。 引き続き追求したい
安全衛生装備導入の参考にしたい。商品詳細と利用者評価・地域や使用状況がもっと数多くあると良かった。
安全装具の説明は特に参考になりました。
安全装備・装置の使用・改良事例を知りたい。 例：ヘルメットのフェイスガード（初心者のキックバック対策としてフェレームをアメフトバージョンの様に） ：ブーツの軽量化（つま先）
安全装備の中でも利用割合の低いチェーンソーブーツについて情報が得られてよかった。 メリット、デメリットを参考に普及を進めていきたい。
安全装備導入に対する補助金制度の活用について、関心を持った。
安全装備品について、実際のメーカー比較をしてもらえるのはわかりやすいと思いました。
安全装備品の補助の際に事業者の方に対して今回学んだ使用感や注意点を伝えていきたいと思います。
安全対策用品について色々と検討中だったため、たくさんの情報が得られてよかった。
稼働機会の損失 それぞれ傷害、死亡の損失額がありましたが、特に死亡の場合の損失額の設定は期間に直すとどの程度の期間を想定しているのか教えてほしいです。
海外の労働災害は、古いデータ（日本がものすごく高く欧米が低い）しか見たことがなかったので驚きました。海外の労働災害対策も含めて、今後の情報収集・情報提供を期待しています。労働災害発生率は、木材生産量と相関していると思いますが、知見がありましたらご提供いただけたら幸いです。
外山木材（株）様の事故発生現場の表示。
環境リアライズさんの安全装備や資材の補助事業を活用していきたい。
現場での取り組み、装備の重要性などがある程度理解できた。やはり、毎日地道に安全に対する意識を保ち続けることが重要だということを再認識した。
吾妻森林組合のチェーンソーブーツにアイゼンを使った方法のその後の状況を知りたい。 石山さんの説明を事業体に紹介し、リアライズへの補助申請を促したい。
実際に外山木材株式会社で行われている作業安全推進事例を聞いたので、弊社でも実践して改善に向けて行動していきたいと思いました。
従事頂く皆さんに怪我無く働いて頂くための取組がマンネリ化してしまう。外山木材株式会社の西久保氏の講演にあったヒヤリ・ハット報告や危険予知活動など同じ取り組みをしています。マンネリ化になるが継続している意味があり、同じ事故を起こさない為に皆さんに再認識してもらう機会づくりと思いました。災害事例により検証をすることを取り入れてみたいと思いました。
諸外国の使用率等のデータは興味深い。さらに詳しく分析をすることで、労働災害の防止に繋がるのではないかと。
植栽の下刈り事故増加、我々の所でも昨年発生しています。今回の情報を職場で共有いたします。



森林環境リアライズの安全衛生装備・装置の利用者評価が参考になりました。
製材工場で実践している具体の取組をご紹介いただいたのは、とても理解しやすく参考になりました。
西久保様の現場の取組みについての発表が良かったです。
他業界の意見も聞け、安全に対して新たな視点で考えられると思った。Q & A にも書いた方がいたが資料がいただければと思った。
他事業者の方の労働安全の取組など具体的に聞けて参考になった。新規入場者へどのように研修を行っているかなど、情報提供をしていきたい。
大分県の労働局との協定を締結した事例が興味深かったです。
猪俣主任研究員には統計の集約だけでなく、もう少し中身の情報をしっかりと把握した上で傾向等の発表をしていただきたい。山田さんのシンプルな疑問にも満足に回答出来ないのは少し問題かと。全国の造林面積や下刈りの面積は林業統計にもありますし、林業労働災害の届出にはどの部位をどのような状況でケガしたか書いてありますよ。
当社では今回の環境リアライズと違った補助事業に参加しています。今回の説明で、今後考えていた安全装備の選択の参考になりました。
同業者による取組みは大変参考となり、良い取組みは全体で真似していけば労働災害の減少の一助になるものと考え。よって従来通り良い情報は会社の垣根を越えて全体で情報共有していくのが良いと考え。
弊社でも転倒によるヒヤリハット事例は聞くことが多いため、猪俣様のお話を受けて、注意喚起をしようと思改めて思いました。
北欧諸国での林業労働災害の発生率が低かったようですが、どのような安全対策を行っているのかを知りたいと思いました。研究成果あればきいてみたいです。
本日は、中身の充実した会議を開催・配信頂きありがとうございました。私どもは、事故を契機に、伐採受託者や保育作業受託者に毎日 LINE で危険予知活動報告を現地から報告してもらう取組みを実施しています。本日もご報告頂いた地域消防へ緊急通報カードを提出するのは良い取組みと思うので検討させていただきます。また、保護ブーツによる山の歩き方教室やハーネスの使用研修、LPWA 通信など良い取組みなのでより詳しい情報を頂ければと思います。
木材産業の方は中々聞く機会がないので、ためになりました。取組み自体は林業にも普及できるものように思いました。 林業の方も、実務上必要な情報が多彩だったので、大変良かったです。
林業・木材産業の労働安全対策の話では、どうしても林業が中心になりがちですが、今回は木材産業の情報も得られて大変参考になりました。安全対策の優良事例を地元の工場に普及したいと思います。
林業安全対策装備の補助事業を実施しているので、具体的なメーカーや商品名とそれに対する要望などを聞くことができた点が良かった
林業事業者で行われている効果的な研修・安全対策活動の具体的な事例を知りたい。
林野庁からの事例紹介にあった、消防署との連携による安全対策は出来れば実践してみたいと思った。
労働災害の要因の傾向・作業種類から特に注意して指導すべき施策が知ることでよかった。
労働災害発生状況の諸外国との比較が興味深かった

### (3) 2月15日 水産業分野「漁業 作業安全推進ウェビナー」

30名の参加者から、15の回答を得た（回答率50%）。集計結果は次の通り。

#### 1 あなたの所属についてお教えてください（択1）

所属	回答数
・農林水産業・食品産業の従事者	1
・農林水産業・食品産業の関連企業・団体	3
・その他分野の企業・団体	3
・行政機関（国、都道府県、市町村）	2
・研究機関	6
・その他（報道関係者）	0
	15

#### 2 今回のイベントは、作業安全について考えるきっかけとなりましたか（択1）

選択肢	回答数
・大いになった	4
・ある程度なった	11
・どちらともいえない	0
・ならなかった	0
計	15

#### 3 今回のイベントで、作業安全の取組に向けて役立つ情報がありましたか（択1）

選択肢	回答数
・大いに得られた	2
・ある程度得られた	13
・どちらとも言えない	0
・得られなかった	0
計	15

4 今回のイベント開催をどこで知りましたか（択1）

選択肢	回答数
・ポスター／チラシを見た	0
・イベントのホームページを見た	1
・国（農林水産省からの連絡、ホームページ閲覧）から	4
・自治体（都道府県、市町村）から	1
・団体（農協など）から	4
・イベント事務局（中部産業連盟）から	0
・その他知人などから	5
計	15

5 今回のイベント開催方法についてどう思いますか（択1）

選択肢	回答数
・今回のようにオンライン開催が良い	12
・対面開催がよい（オンラインでは不十分だった）	0
・対面開催としつつ、オンライン配信もしてほしい（選択できると良い）	3
計	15

6 このイベントについて、来年も参加したいですか（択1）

選択肢	回答数
・参加したい	10
・どちらとも言えない	5
・参加しない	0
計	15

7.興味をもった内容、自職場で実践したいと感じた内容など、感想をお聞かせください（自由記載）

ライフジャケットの徹底が改めて大事だと思いました。火災の動画や事故の写真などが怖さが伝わり気を付けようと思いました。ありがとうございました。
・電気系統が要因となる船内火災の予兆に関する情報は有益であった。 ・JM-Safety に興味を持ちました。

#### (4) 2月16日 食品産業分野「食品産業 作業安全推進ウェビナー」

55名の参加者から、39の回答を得た（回答率71%）。集計結果は次の通り。

##### 1 あなたの所属についてお教えてください（択1）

所属	回答数
・農林水産業・食品産業の従事者	25
・農林水産業・食品産業の関連企業・団体	7
・その他分野の企業・団体	4
・行政機関（国、都道府県、市町村）	1
・研究機関	1
・その他（報道関係者）	1
	39

##### 2 今回のイベントは、作業安全について考えるきっかけとなりましたか（択1）

選択肢	回答数
・大いになった	19
・ある程度なった	18
・どちらともいえない	2
・ならなかった	0
計	39

##### 3 今回のイベントで、作業安全の取組に向けて役立つ情報がありましたか（択1）

選択肢	回答数
・大いに得られた	9
・ある程度得られた	25
・どちらとも言えない	5
・得られなかった	0
計	39

4 今回のイベント開催をどこで知りましたか（択1）

選択肢	回答数
・ポスター／チラシを見た	0
・イベントのホームページを見た	4
・国（農林水産省からの連絡、ホームページ閲覧）から	10
・自治体（都道府県、市町村）から	1
・団体（農協など）から	7
・イベント事務局（中部産業連盟）から	0
・その他知人などから	12
計	34

5 今回のイベント開催方法についてどう思いますか（択1）

選択肢	回答数
・今回のようにオンライン開催が良い	33
・対面開催がよい（オンラインでは不十分だった）	0
・対面開催としつつ、オンライン配信もしてほしい（選択できると良い）	6
計	39

6 このイベントについて、来年も参加したいですか（択1）

選択肢	回答数
・参加したい	33
・どちらとも言えない	6
・参加しない	0
計	39

7.興味をもった内容、自職場で実践したいと感じた内容など、感想をお聞かせください（自由記載）

「食品業界の労働災害防止について」の考え方が参考になりました。
・キッコーマンの業間体操 ・安全体感 VR
5S 活動・指差し呼称・ヒヤリハットなどを実践し安全な職場作りにつなげたいと考えます。
キッコーマンさんや叙々苑さんの事例が勉強になった
キッコーマン様の業間体操は、取り組み自体に感銘を受けました。参考にさせていただきます
ヒューマンエラーをセンシングなどの技術で予防できるようにすること（ドアの向こうに人がいることを知らせるなど）危険体感をすることで安全意識の癖をつけるようにしたい。

ラジオ体操も形骸化しているので転倒防止対策としての体操は、発想が素晴らしいと感じました。
各企業での KY 活動など参考になりました。ありがとうございました。
各社の取り組みが参考になった。外国における指差確認が文化的なハードルが高いと聞いて驚いた。
業間体操の様な自社独自の活動開発も考えていきたいと感じた。
高年齢従業員の体力測定や業間体操の件が参考になりました
昨今の労働災害の傾向と各企業による労働安全の取組と対策を参考にしたいと思いました。
転倒防止の体操など無料動画を公開しているなら URL を知りたい。
転倒防止対策の一つに体操を取り入れること。
労働災害は「食品製造」よりも「建設現場」でより多く発生するものと思っていましたが、そうではないことにショックを受けています。製造現場での高齢化が進んでいることもあり、当社でも労災の発生件数がじわじわと上がっています。現状をしっかりと把握し、対策していかなければならないと思いました。

## 4. 成果品の提出

### (1) チラシ・ポスター

チラシ表面 (A4 版) ・ ポスター (A1 版)

—若者が自らの未来を託せる産業にするために—

# 見直そう!安全対策

全国どこからでも参加可能  
誰でも参加無料

農林水産業・食品産業

# 作業安全推進 Week

農林水産業・食品産業の現場では、毎年多くの死傷事故が発生しています。これら産業が継続して発展するためには、将来を担う若者が未来を託せる安全に働ける職場にしなくてはなりません。作業安全対策を自分事と捉え、何よりも安全、人命を優先することを再確認する機会とするため「農林水産業・食品産業 作業安全推進Week」を開催します。

開催日程 2023 2.13 ~ 16 (月) ~ (木) 14:00 ~ 16:00  
農林水産業・食品産業の分野別ウェビナーを開催

開催方法 オンライン・ライブ配信【Zoomウェビナー】で開催します

参加方法 公式WEBサイト(下記URLまたはQRコード)よりアクセスし、事前登録をお願いします(※事前登録必須)

<https://chusanren.tokyo/anzen-week>  
(農林水産業・食品産業 作業安全推進Week 特設サイト)

農林水産省

## チラシ裏面 (A4版)

最新版はWEBサイトをチェック!

作業安全推進Week 検索



### スケジュール

## 作業安全推進のための会議・ウェビナー(分野ごとに開催)

各分野の現場の事業者、関係団体、研究機関、行政等から、安全対策に関する情報の発信を行います。

2月13日(月) 14:00~16:00	概要	講演者	農業
【令和5年春の農作業安全確認運動推進会議】			
1	令和4年の農作業安全確認運動の取組状況と令和5年の方針について	農林水産省	
2	農業機械メーカーからの取組状況の報告	農業機械メーカー	
3	地域における取組状況の報告	都道府県	
2月14日(火) 14:00~16:00	概要	講演者	林業・木材産業
1	林業の労働災害の近年の特徴(講演)	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業工学研究領域 省力化技術研究室 主任研究員 猪俣 雄太 氏	
2	林業労働安全衛生装備・装置の普及と課題(講演)	株式会社森林環境アライズ 専務取締役 石山 浩一 氏	
3	外山木材株式会社における作業安全の取組について(講演)	外山木材株式会社 製造部長 西久保 有亮 氏	
2月15日(水) 14:00~16:00	概要	講演者	水産業
1	漁業における火災事故の原因及び対策について(講演)	運輸安全委員会 事務局 総務課 事故防止分析室 専門官 漆谷 伸介 氏	
2	漁船の安全対策に関する優良な取組について(講演)	公益社団法人北海道海難防止・水難救済センター 事業部長 柴田 光景 氏	
3	スマホ用AISアプリについて(講演)	日清紡ホールディングス株式会社経営戦略センター デジタルビジネス推進室 専門課長 小島 和也 氏	
2月16日(木) 14:00~16:00	概要	講演者	食品産業
1	食品業界の労働災害防止について(講演)	中央労働災害防止協会 技術支援部 上席専門役 倉上 智行 氏	
2	不二製油グループの安全啓発活動に関して(講演)	不二製油グループ本社株式会社 生産性推進グループ 生産性推進チーム チームリーダー 伊藤 一孝 氏	
3	踏み転倒防止と健康維持を目指して開発した業間体操(講演)	キッコーマン食品株式会社 人事部 長 長島 宏行 氏	

### お問い合わせ先

農林水産省委託事業事務局 一般社団法人中部産業連盟 東京事業部  
担当: 砂田・寒河江  
E-mail : anzen-week@chusanren.or.jp

農林水産省



## (2) 編集動画

Zoom ウェビナーと YouTube ライブストリーミング配信の組合せでは、以下の3種類の動画を取得・保存できる。

- ① ホスト PC による録画
- ② ホスト PC に接続された外付けカメラ（ビデオカメラ）による録画
- ③ YouTube ライブ配信によるオンデマンド録画

①と③については原則同様の動画となるが、YouTube ライブの仕様上、③については、画面共有された資料と講演者の映像が重なる箇所がある（画面共有された画面の内側に講演者の顔を映した小窓が埋め込まれる）ため、資料の視認性を考慮し、本業務では①をベースに編集し、発注者に納品した。

編集方針をあらかじめ発注者に確認し、イベント・講演者ごとのクリップ編集をおこなうとともに、不用部分をカットのみの全体の通し動画も制作した。主な編集箇所は、司会による冒頭説明や休憩時間などの不用部分のカット、講演者の PC 操作等による映像停滞部分、不必要な無音部分のカットなどとした。また、講演者以外の映像や不要部分の映り込みについてはマスク処理などを行った。加えて、マイクの誤操作等による無音箇所について②の動画による該当音声抽出し、①と合成させる編集を行った。

講演者側の通信回線による映像・音声の乱れについても一部削除や結合処理を行った。一定期間に多発した映像の乱れについては、音声データを分離後、前後映像の一部をフリーズ画面として活用し、合成編集を行った。

以上の編集をおこなったものを、DVD-R に収録し、納品した。

以上